

*K*itami
*I*nstitute of
*T*echnology
Center for Regional Community

was

Connect ?

【巻頭言】

「令和の時代に一步、前へ」



社会連携推進センター長
(工 学 部 教 授)
有田 敏彦

2019年度社会連携推進センター年報の発刊に際して、一言ご挨拶を申し上げます。

社会連携推進センター（前 地域共同研究センター）は発足以来、本学が地（知）の拠点として在るために、北見市ひいてはオホーツク地域の産業等の多様なニーズに対応できる人材育成に繋がるよう活動を行って参りました。

そうした中、小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学の三大学は、2022年4月に「北海道国立大学機構」を創設し、同法人が三大学を運営する組織体制（一法人複数大学制）を構築することで、分野融合型の新たな教育システムの開発による人材育成及び産学連携体制による経済・産業の課題解決を目指します。

昨今、本学とオホーツク地域、ひいては北海道との連携はますます強固になっており、2019年6月に北見管内漁業協同組合長会と包括連携協定を締結した他、12月にはこれまで共同研究を行ってきた株式会社北見ハッカ通商と共同研究講座「HAKKALAB（ハッカラボ）」を設置したことで、より安定的な研究基盤が構築されたことによって新たな研究展開が期待されています。

また、同じく12月に株式会社NTTドコモと5G（第5世代移動通信システム）を活用した防災・一次産業分野における研究力強化に関する連携協定を締結しました。今後は「高速・大容量・低遅延・多数接続」という5Gの特性を活かすことでドローン等を使用した災害現場の状況のリアルタイム把握や、スマート農業分野における無人トラクターの活用に向けた取り組み等に活用されることが期待されています。

「令和」という新しい時代を迎え、変化し続ける社会的ニーズに対応できるような人材を育てる“教育”と、地域ひいては世界を少しでも良いものにするための“研究”を両輪に据えることで、社会連携推進センターは今後も地域の発展を目指して「前へ」進みたいと考えています。

ぜひとも地域の皆様には当センターのみならず、北見工業大学における教育・研究活動を知っていただき、活用いただきたいと切に願うとともに、今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

社会連携推進センター一年報目次

【巻頭言】

「令和の時代に一步、前へ」

社会連携推進センター長 有田 敏彦

1. 2019 年度活動状況

1) 事業計画及び事業報告

2019 年度 事業計画 1

2019 年度 事業報告 2

2) 運営組織

スタッフ 5

客員教授 5

産学官連携推進員 6

産学官連携推進協力員 6

3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告 8

共同研究件数の推移 9

共同研究受入一覧表 10

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況 19

5) 知的財産活動実績

発明届出・国内特許出願・国内特許登録件数 27

6) 地域再生人材育成プログラムの推進

工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業報告 28

7) 各種会議報告 32

8) 活動日誌 34

2. 付録

- ・センター関連規程
- ・技術相談申込書

1. 2019 年度 活動狀況

1) 事業計画及び事業報告

2019 年度事業計画

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄付等による事業推進を図る。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を特任教授、客員教授等の協力の下、推進する。

2. イノベーション創出に関する事業

本学研究シーズの活用から地域産業活性化に繋がる事を目的として、産学官連携事業により、新技術、知的財産等の創出を推進する。これらを実施するに当たっては、地域産学官連携により各省庁（農水省、国交省、経産省、総務省等）の施策に提案することも考慮した活動を推進する。

3. 教育事業（社会人、学生）

地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進するために、産学官関連事業等を活用し、人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進する。また、他機関が開催するセミナー等においても、共催、後援を含め協力支援する。

オホーツク農林水産工学連携研究推進センター等への協力及び小中学校等への理科教育への協力を行う。

4. 融合事業の推進

近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化し、研究シーズの普及、学生の地域定着等推進のため、地域一体となった活動へとつなげることを目的として、地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進する。

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

本学の研究、社会貢献等の特徴や地域特性を含めたPRを目的として、公的機関等が開催する各種会議・パネル展に積極的な出展を推進する。そのためにセンターの年報、パンフレットの発刊やホームページの充実を図る。これらのPR活動を通じて同窓会活動の活性化に寄与する。

ニューステターの発刊及び展示会等への参加とメディアへの情報提供及び同窓会と連携した学生への広報活動を行う。

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの運営の効率的な事業・施設運営を目的として、センター運営会議、センターミーティングにより、情報の共有化を図る。また、北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（北見市商工観光部主催）等のニーズに対応できる体制を構築する。また、全国的な情報を得るために、センター長等会議や専任教員会議（全国）を活用し、センター運営に役立てるものとする。

施設運営の上では、共用研究室として有効な体制を整え、インキュベーション機能、人材育成事業のフォローアップ等の支援体制を構築する。

7. その他関連する事業

1～6 以外の社会連携推進センターとして必要と思われる事業を推進する。

2019 年度事業報告

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄附金等を通じた事業推進を図った。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を特任教授、客員教授等の協力の下、推進した。

- 127件（内訳：道外67件、道内28件、オホーツク圏32件）
- 共同研究等の推進活動による、研究シーズの普及と地域ニーズの発掘、教育支援
 - ・工農教育関係（1件、霜鳥）、地域振興関係（3件、榊井、木田、井上）、INPIT（3件、星野浪越、大野）【敬称略】

2. イノベーション創出に関する事業

本学研究シーズの活用から地域産業活性化に繋がる事を目的として、産学官連携事業により、新技術、知的財産等の創出を推進した。これらを実施するに当たっては、地域産学官連携により各省庁（農水省、国交省、経産省、総務省等）の施策に提案することも考慮した活動を推進した。

これらの実践のため、遊休公施設を活用した教育・研究拠点の形成に支援した。

- 経産省：「ものづくり・商業・サービス補助金」コーディネート
- 厚労省：雇用創造協議会「実践型地域雇用創造事業」の実施指導
- 国交省（開発局）：連携協定に基づく官学連携活動
- 農水省：農観連携ビジネス創出推進協議会
- JST：イノベーション人材育成委員会、産学官連携ジャーナル発行委員会委員
- ノーステック財団：事業への協力（企画委員）
- 旧北見競馬場の活用に係る調査と整備（以下、敬称略）
 - 実施：コンクリートの耐寒（井上）、擁壁の挙動（川尻）、河川増水（早川）、タマネギの移植（浪越）、のり面研究の拡張（川口）
 - マッチング支援：オホーツクの農業環境改善、サロマ湖の環境改善、工農事業
- 2022年4月、帯広畜産大学、小樽商科大学との3大学での経営統合に関連したオープンイノベーションセンター構想の企画
- 各機関委員：北海道科学技術審議会委員、公益財団法人オホーツク地域振興機構審査委員長、北見市技能普及実行委員長、北見地域企業立地促進協議会長、北見市雇用創造協議会運営会委員、北見市中小企業振興審議会会長 等

3. 教育事業（社会人、学生）

地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進するために、産学官関連事業等を活用し、人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進した。また、他機関が開催するセミナー等においても、共催、後援を含め協力支援を行った。

- 学生による地域貢献活動の推進（マネジメント工学コースを中心として）
 - ・置戸町置戸夏まつり（7/7）、北見ぼんち祭り（7/19, 20, 21）、美山小学校（9/5, 11/7）、緑小学校（12/14）（教育委員会土曜学校）、市町村イベントにおける科学実験教室等（11/3 科学の祭典、驚き！おもしろ科学実験）
- 地域産業界との教育連携
 - ・青年会議所OB（猛進会）「学生懇談会」（10/29）
 - ・北海道中小企業家同友会「学生懇談会」（2/25）
- 人材育成事業
 - ・北見市「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」6名受講（社会人4、学生2）、「地域を彩る食物語」（北見パラボ開催）
- 客員教授を依頼し、産学連携活動等にご協力をいただいた。以下、敬称略
 - 吉田 芳春（吉田国際特許事務所 所長 弁理士）
 - 舩井 一仁（芝綜合法律事務所 弁護士）

各務 茂夫（東京大学教授 産学連携本部事業化推進部長）

三井 良一（元 J S T 特許主任調査員）

○セミナー等の開催

・公開講座（2件、高齢者用スマホ教室とPC教室）

○セミナー等の開催協力

・地域を彩る食物語(1/9～14)北見市産学官連携推進協議会

・オホーツク・スマート農業セミナー2019（1月17日）

・北見市技能普及実行委員会「和食の基本・ダシを科学する～味の探求～」(9/25)開催協力

・北見医工連携研究会「医工連携フォーラム」、北見医師会「オホーツク医学大会」、(コロナウィルスの影響で中止)

4. 融合事業の推進

近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化し、研究シーズの普及、学生の地域定着等推進のため、地域一体となった活動へつなげることを目的として、地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進した。

○市町村訪問、オホーツク総合振興局内1回ずつ訪問

○東京農業大学、東京農大マルシェ(10/12)

○オホーツク地域エネルギー環境教育研究会とともに地域子供教育事業協力

○オホーツク産学官融合センター事務局会議にて公設試等と月1回開催、地域コアの併設

○産業クラスター研究会「麻プロジェクト」、「テレワークプロジェクト」、「イソッププロジェクト」、「マイクロフーズプロジェクト」へ協力

○学生の地域定着を目的とした振興局内企業への広報活動により2名の定着に協力

○北海道中小企業家同友会との連携事業協力

○産業界との連携強化に向けた定期的な情報交換の企画・実行（研究探索、教育活動、学生のインターンシップおよび就職活動支援）

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

本学の研究、社会貢献等の特徴や地域特性を含めたPRを目的として、公的機関等が開催する各種会議・パネル展に積極的な出展を推進した。そのためにセンターの年報、パンフレットの発刊やホームページの充実を図った。これらのPR活動を通じて同窓会活動の活性化に寄与した。

○産学官交流イベント等出展状況

○センター刊行物の発刊

・センター年報、センターパンフレット、ニュースレター、オホーツクスカイ編集

○各種新聞・雑誌等掲載

○同窓会活動との連携による共同研究等の広報活動

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの運営の効率的な事業・施設運営を目的として、センター運営会議、センターミーティングにより、情報の共有化を図った。また、北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（北見市商工観光部主催）等のニーズに対応できる体制を構築した。また、全国的な情報を得るために、センター長等会議や専任教員会議（全国）を活用し、センター運営に役立てるものとした。

施設運営の上では、共用研究室として有効な体制を整え、インキュベーション機能、人材育成事業のフォローアップ等の支援体制を構築した。

○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（事務局：北見市商工観光部）(4/22)

○北見工業大学産学官連携推進員・協力員合同会議の開催（10/28）

社会連携推進センター運営会議 月1回（学内）

○社会連携推進センターミーティング 週1回（学内）

○専任教員会議（東北大学）(9/5～6)

○国立大学共同研究センター長等会議（岩手大学）（10/3～4）

7. その他関連する事業

1～6 以外の社会連携推進センターとして必要と思われる事業を推進した。

- 広報備品・消耗品充実
 - ・印刷物など地域還元の推進
- 地域産業界からの知財相談への対応
- 社会人大学院教育新システム広報

2) 運営組織

◆スタッフ

社会連携推進センター	センター長 工学部	(兼任) 教授	有田 敏彦
	センター教員 工学部	准教授	内島 典子
事務局	研究協力課長		清野 千春
	研究協力課副課長	(地域)	斉藤 靖子
	研究協力課専門職員 (産学官連携コーディネーター)		三枝 昌弘
	研究協力課 産学連携担当係長		反保 聡史
	研究協力課 地域連携担当係長		後藤 将大
	事務補佐員		弦巻 香澄

◆客員教授

氏名	現職名	職務内容	期間
各務 茂夫	東京大学教授 産学連携本部 イノベーション推進部長	・産学官連携事業に対する指導・ 助言等	2019.4.1～ 2020.3.31
舩井 一仁	芝綜合法律事務所 弁護士	・教員研究テーマの特許化と学内 知財の国内外へのライセンス 可能性探索 ・特許化支援に関する共同研究及 び事例解説、手法指導等	2019.4.1～ 2020.3.31
吉田 芳春	吉田国際特許事務所 所長 弁理士	・提案特許の評価・選別、知財戦 略等 ・社会貢献へのコミット、手法指 導等	2019.4.1～ 2020.3.31
三井 良一	国立大学法人室蘭工業大学 客員教授	・大学の知的財産の発掘、権利化、 活用及び管理等 ・知的財産活動の推進、指導及び 助言等 ・外部機関との知的財産に関する 連携等 ・知的財産論・地域学に関連する 講義等	2019.4.1～ 2020.3.31

◆産学官連携推進員

独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部	北見オフィス所長	小 中 博 好
北見商工会議所	オホーツク産学官融合センター長	池 田 嘉 孝

◆産学官連携推進協力員

一般社団法人北見工業技術センター 運営協会	事業支援課長	進 藤 覚 弥
公益財団法人オホーツク地域振興機構 北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター	研究員	小 林 秀 彰
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	北見農業試験場研究部長	江 部 成 彦
北 見 市	商工観光部工業振興課 産学官連携係長	川 西 康 裕
網 走 市	観光商工部商工労働課長	秋 庭 孝 博
紋 別 市	産業部商工労働課長	高 橋 秀 明
置 戸 町	産業振興課長	蓑 島 賢 治
訓 子 府 町	農林商工課長	遠 藤 琢 磨
佐 呂 間 町	農務課長	安 藤 誠 司
津 別 町	産業振興課長	小 野 敏 明
美 幌 町	総務部まちづくりグループ 政策主幹	後 藤 秀 人
大 空 町	産業課長	藤 田 勉
遠 軽 町	経済部商工観光課長	小 椋 将 秀
斜 里 町	産業部商工観光課長	河 井 謙
小 清 水 町	産業課長	細 川 正 彦
湧 別 町	企画財政課長	佐 藤 敏 正
興 部 町	産業振興課長	長 嶺 毅
雄 武 町	産業振興課長	山 崎 佳 之
滝 上 町	まちづくり推進課 まちづくり推進係主事	長 澤 江 梨 子
清 里 町	企画政策課まちづくりグループ 主査	長 屋 智 洋

西 興 部 村	産業建設課長	小 崎 稔 勝
北 洋 銀 行 北 見 中 央 支 店	北見中央支店副支店長	小 笠 原 誠
北 海 道 銀 行	北見支店副支店長	大 野 圭 司
北 見 信 用 金 庫	地域金融支援部地域金融支援課 上席調査役	松 田 剛 一
網 走 信 用 金 庫	地域振興支援部副部長	小 林 寿 明
遠 軽 信 用 金 庫	融資管理グループ経営支援部門 統括役	佐 藤 健 治
日 本 政 策 金 融 公 庫 北 見 支 店	国民生活事業融資課長	村 上 英 樹
日 本 政 策 金 融 公 庫 旭 川 支 店	中小企業事業融資課長	小 暮 洋
帯 広 畜 産 大 学	産学連携センター長	大 庭 潔
東 京 農 業 大 学	生物産業学部 自然資源経営学科 准教授	菅 原 優
日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学	看護薬理学領域 教授	根 本 昌 宏
北 海 道 開 発 局 網 走 開 発 建 設 部	地域振興対策室官	池 田 俊 次
北 海 道 新 聞 社 北 見 支 社	営業部	成 田 一 貴
公 益 財 団 法 人 北 海 道 科 学 技 術 総 合 振 興 セ ン タ ー	研究開発支援部長	伊 藤 征 也
網 走 測 量 設 計 協 会	副会長	内 海 和 彦

◆産学官連携推進員・推進協力員合同会議オブザーバー

経 済 産 業 省 北 海 道 経 済 産 業 局	地域経済部産業技術課 産学官連携推進係長	山 本 英 明
オ ホ ー ツ ク 総 合 振 興 局	産業振興部商工労働観光課長	一 ノ 関 弘 祐
公 益 財 団 法 人 北 海 道 中 小 企 業 総 合 支 援 センター	オホーツク支部長	伊 藤 道 雄
北見工業大学生生活協同組合	専務理事	田 端 一 徳

※ 産学官連携推進員・推進協力員、合同会議のオブザーバーについて

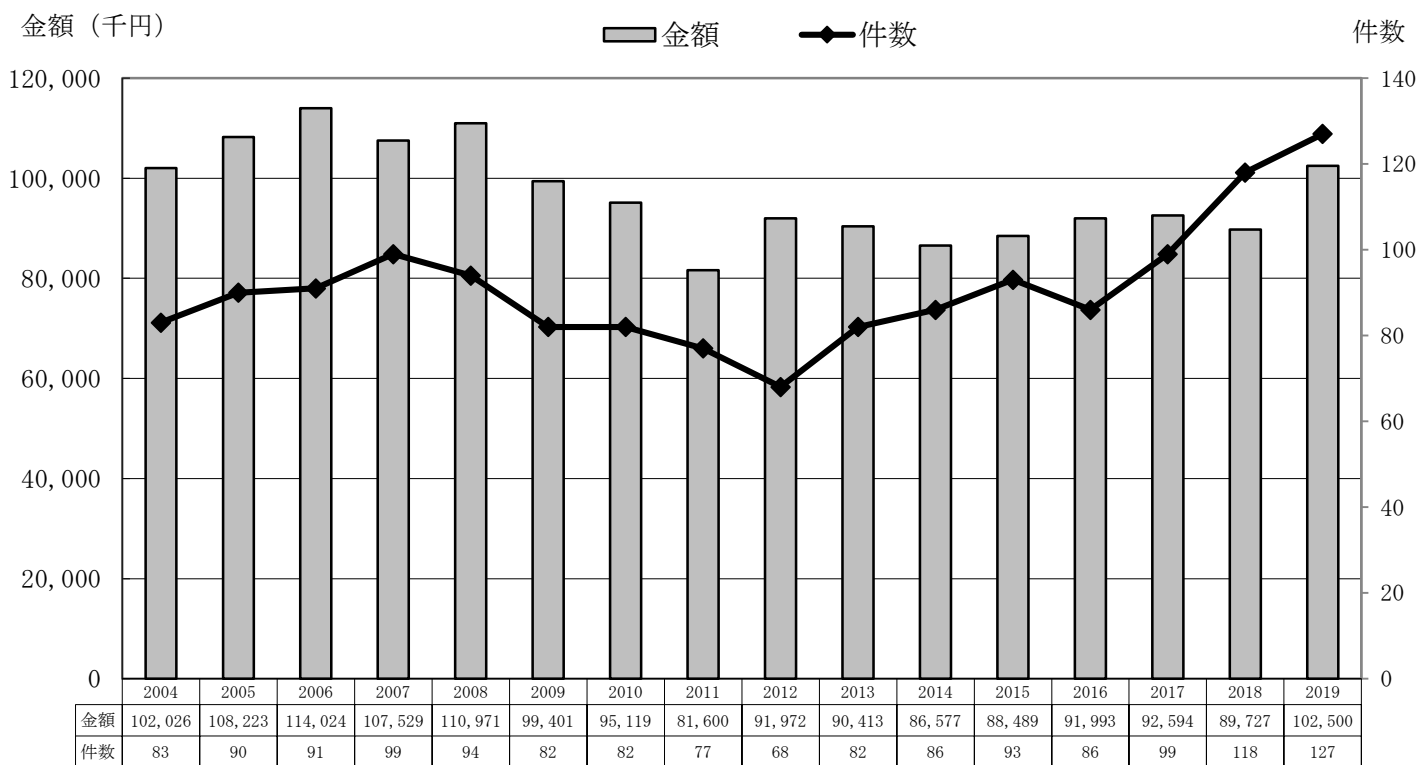
地域との関係をより緊密にするために、周辺自治体から推進員・推進協力員を派遣していただいています。推進員・推進協力員の役割は、各自治体および産業界におけるニーズを円滑に大学へ伝えることで、産学官連携を推進することです。

また、推進員・推進協力員合同会議には、北海道内の各行政機関等からオブザーバーとして参加協力をいただいております。

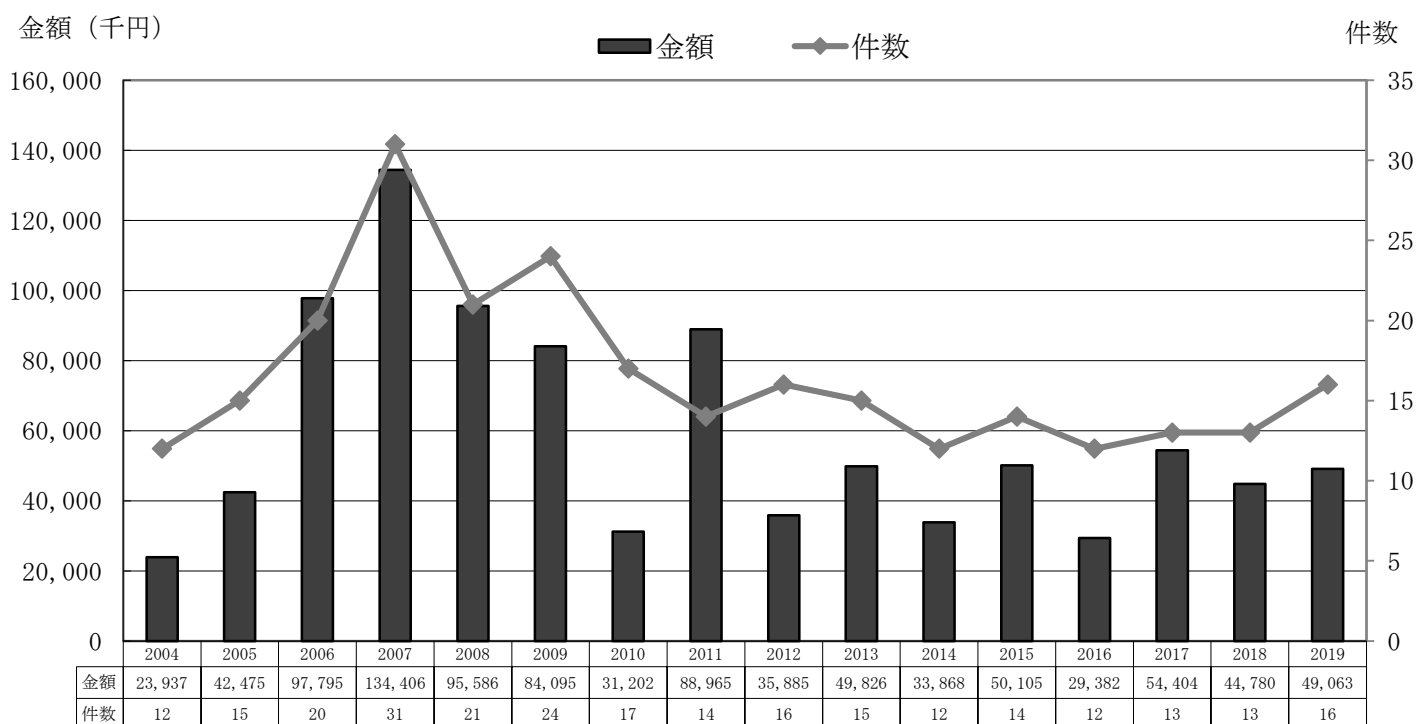
3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告（2004年度～2019年度）

共同研究



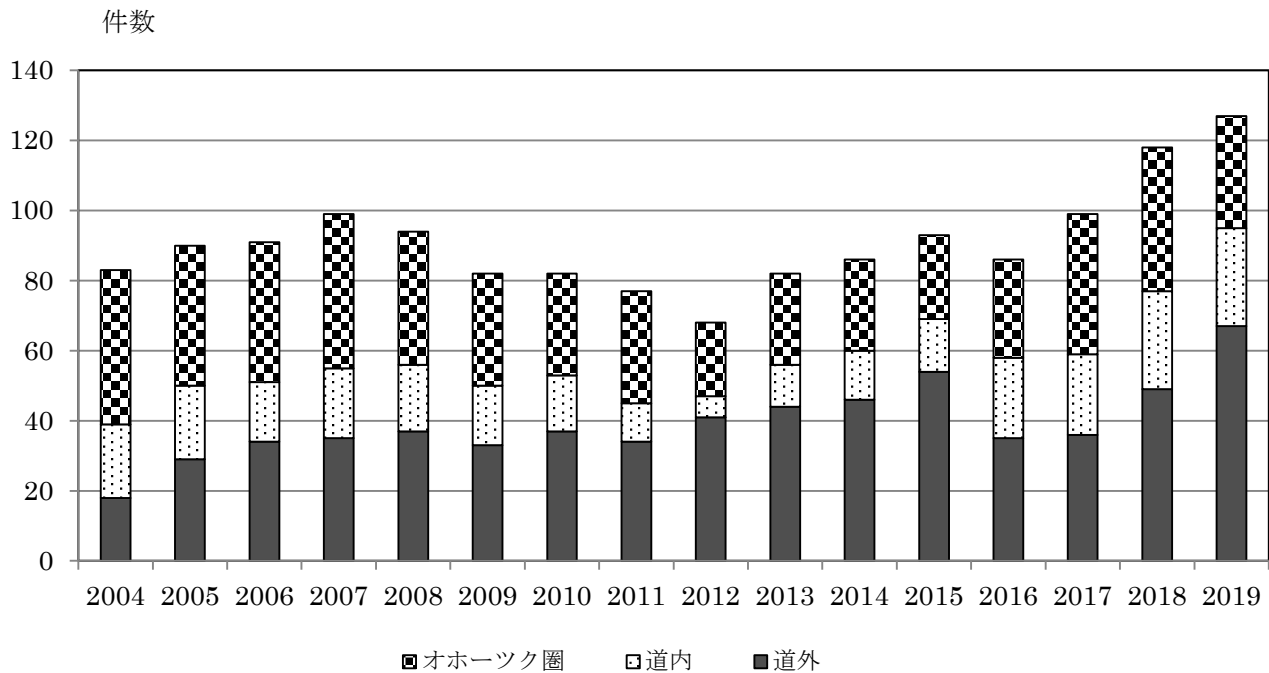
受託研究



北見工業大学 共同研究件数の推移

年度	道外	道内	オホーツク圏	総件数
2004	18	21	44	83
2005	29	21	40	90
2006	34	17	40	91
2007	35	20	44	99
2008	37	19	38	94
2009	33	17	32	82
2010	37	16	29	82
2011	34	11	32	77
2012	41	6	21	68
2013	44	12	26	82
2014	46	14	26	86
2015	54	15	24	93
2016	35	23	28	86
2017	40	23	36	99
2018	49	28	41	118
2019	67	28	32	127

【共同研究】オホーツク圏・道内・道外



2019年度 共同研究受入一覧表 (※「所属」・「職名」及び「受入れ相手先」の表記は契約時点のものです)

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
1	梶井 文人	情報システム 工 学 科	准教授	カーリング競技の戦略シミュレー タに関する研究	株式会社 AIS 北海道
2	中村 大	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地における切土法面の凍 上対策に関する研究	国立研究開発法人土木 研究所寒地土木研究所
3	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	准教授	結氷河川におけるアイスジャム被 害に対応する河川管理技術に関す る研究	国立研究開発法人土木 研究所寒地土木研究所
4	渡邊 康玄	社 会 環 境 工 学 科	教授	河川における土砂の移動特性を考 慮した河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人土木 研究所寒地土木研究所 ／愛知工業大学総合技 術研究所
5	川尻 峻三	社 会 環 境 工 学 科	助教	積雪寒冷地における既設補強土壁 の健全度評価手法の確立に関する 研究	国立研究開発法人土木 研究所寒地土木研究所
6	舘山 一孝	地 球 環 境 工 学 科	准教授	積雪地域における雲の放射影響の 研究	気象研究所
7	亀田 貴雄	地 球 環 境 工 学 科	教授	VLF 帯電波受信機を用いた日本・ア ジア域で発生する雷放電のリアル タイム監視	国立大学法人北海 道大学
8	酒井 大輔	地域未来デザイン 工 学 科	助教	透明海洋生物の光学特性の役割解 明に関する研究	国立研究開発法人産 業技術総合研究所／ 国立大学法人琉球大学 ／学校法人東海大学
9	宮森 保紀	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	低温環境下における免震ゴム支承 の力学特性	住友理工株式会社免 制震デバイス技術部 ／日本鑄造株式会社
10	古瀬 裕章	地 球 環 境 工 学 科	准教授	希土類添加透光性アルミナ多結晶 体の創製	国立研究開発法人 物質・材料研究機構
11	大津 直史	地 球 環 境 工 学 科	准教授	銀徐放性抗菌材料から発生するラ ジカル種の同定・定量	エビナ電化工業株 式会社
12	駒井 克昭	地 球 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における自然環境保全と維 持管理手法に関する研究	株式会社西村組
13	有田 敏彦	地球環境工学科・ 地域未来デザイン工学科	教授	風力発電機ブレードへの着氷雪特 性の研究	株式会社ユーラスエナ ジーホールディングス

2019年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
14	駒井 克昭	地 球 環 境 工 学 科	准教授	野生動物を対象とした行動情報収集システムの開発	ノースワン株式会社
15	新井 博文	地域未来デザイン 工 学 科	教授	北海道産海藻フコイダンの機能評価	株式会社ファイナルフューチャーインターナショナル
16	小針 良仁	地 球 環 境 工 学 科	助教	天然資源の実用化を指向した利活用に関する研究	株式会社シロ
17	大野 智也	地 球 環 境 工 学 科	教授	炭素素材とホタテ貝殻粉末を複合化させた圃場散布用融雪剤の開発	株式会社常呂町産業振興公社
18	三上 修一	地域未来デザイン 工 学 科	教授	積雪寒冷地のコンクリート床版の劣化メカニズムに関する研究	株式会社アサヒ建設コンサルタント
19	大津 直史	地 球 環 境 工 学 科	教授	レーザー窒化による鉄鋼材料高耐久化に関する研究	中日クラフト株式会社
20	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	ハッカからの有効成分抽出法の開発と評価	株式会社北見薄荷通商
21	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	ハッカ生草の利活用法の開発	株式会社北見薄荷通商
22	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	人工光源による和種ハッカの育成	株式会社北見薄荷通商
23	高橋 是太郎	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	特任教授	牛尿完全醗酵生成物の魚類成育環境水に対する水質改善効果に関する研究	株式会社環境ダイゼン
24	高橋 是太郎	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	特任教授	オホーツク海産ヒトデの高度利用に関する研究	株式会社龍榮総研
25	古瀬 裕章	地 球 環 境 工 学 科	准教授	着氷雪除去のためのレーザー光源の最適波長に関する研究	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
26	宮崎 健輔	地域未来デザイン 工 学 科	助教	27 プラスチックの塗布型酸化促進剤の高機能化に関する研究	双日株式会社／ ピーライフ・ジャパン・インク株式会社
27	星野 洋平	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	重量物搬送装置のシステム解析と多用途最適化に向けた制御系構築の研究	エクセン株式会社
28	川村 彰	地域未来デザイン 工 学 科	教授	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社PROFICT LAB

2019年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
29	川村 彰	地域未来デザイン 工 学 科	教授	平成30年度 注意喚起溝工法に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術 研究所/鹿島道路株式会社
30	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	糖添加前処理による農産乾燥製品の製品品質の向上と安定化	公益財団法人函館 地域産業振興財団 (北海道工業技術センター)
31	山下 聡	地 球 環 境 工 学 科	教授	海底掘削装置の設計技術に関する研究	株式会社三井E&S 造船株式会社
32	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	教授	食肉の熟成に関する研究開発	株式会社MARS PRODUCTS
33	松村 昌典	地 球 環 境 工 学 科	准教授	バルーンカテーテルを用いた臓器灌流用コネクタの開発研究	中央精工株式会社
34	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	クモ糸フィブロインの生産量向上に向けた培地組成の検討に関する研究	Spiber株式会社
35	星野 洋平	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	微酸性電解水を利用したカボチャの貯蔵性に関する研究	デノラ・ペルメレ ック株式会社
36	高井 和紀	地 球 環 境 工 学 科	准教授	GPSを用いた車両位置判定アルゴリズムの研究	株式会社ワーカム 北海道
37	中村 大	地 球 環 境 工 学 科	准教授	住宅用地における土留め擁壁の凍上被害の解明と対策工の確立	ミサワホーム北海 道株式会社
38	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	ガラスープの品質予測システムの構築	和弘食品株式会社
39	黒河 賢二	地域未来デザイン 工 学 科	教授	光給電を用いた通信方法に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシ ステム研究所
40	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	教授	ラマン分光法による黒曜石産地同定の確立に向けた研究	遠軽町
41	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	教授	生体電気インピーダンス法における装置小型化について	国立大学法人新潟 大学
42	橋本 泰成	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	室内温熱環境と睡眠の質に関する研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所

2019年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
43	古瀬 裕章	地 球 環 境 工 学 科	准教授	パルス通電方式による光学材料の 接合技術の研究	浜松ホトニクス株式会社/ 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構核融 合科学研究所
44	吉澤 真吾	情 報 通 信 系	准教授	長距離海中無線通信制御方式の開発	横河電機株式会社
45	鈴木 勉	工 学 部	特任教授	易着火性備長炭の新規製造とその 実用製品化	協同組合ラテスト
46	阿部 良夫	応 用 化 学 系	教授	無機EC薄膜材料を用いた高信頼性メモリー型 エレクトロクロミックデバイスの研究開発	非公表
47	早川 博	社 会 環 境 系	教授	北見市環境調査研究(大気、水質、 騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	北見市
48	早川 博	社 会 環 境 系	教授	北見市生物調査研究	北見市
49	早川 博	社 会 環 境 系	教授	北見市一般廃棄物処理に関する環 境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
50	鈴木 勉	工 学 部	特任教授	紙/フェノール樹脂積層板廃材か らの新規グラファイト材料の開発	利昌工業株式会社
51	小西 正朗	応 用 化 学 系	教授	バイオ活性水の製造・植物生長促 進作用に関する研究	株式会社環境ダイゼン
52	浪越 毅	応 用 化 学 系	准教授	玉ねぎ育苗用の培土に使用する固 化材及び固化方法の検討	森産業株式会社
53	有田 敏彦	地 域 国 際 系	教授	送電線用多項目測定器の高電圧・ 悪気象環境下での稼働研究	株式会社工学気象 研究所
54	川口 貴之	社 会 環 境 系	教授	非破壊試験方法によるセメント系固化 処理土の強度推定に関する研究開発	東亜建設工業株式会社
55	南 尚嗣	社 会 環 境 系	教授	紋別市における下水汚泥・放流水中の 有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市下水道事業
56	南 尚嗣	社 会 環 境 系	教授	網走市における下水汚泥および放流 水中成分の長期モニタリング研究	網走市

2019年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
57	ブタシンスキ, ミハウ エドモンド	情報通信系	准教授	クラシファイドサイトにおけるユーザー 投稿のクオリティーチェックの自動化	株式会社ジモティー
58	渡邊 達也	社会環境系	助教	土砂災害リスクの把握を目的とした沖積錐の研究 -土砂災害リスクマップの作成を目指して-	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
59	早川 博	社会環境系	教授	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保 全対策協議会
60	南 尚嗣	社会環境系	教授	網走市能取污水处理施設における放 流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
61	松村 昌典	機械電気系	准教授	住宅用24時間換気システムに関する研究	ケイ・マックインダ ストリー株式会社
62	新井 博文	応用化学系	教授	常呂産ニンニク加工物の生理機能 に関する研究	日本製薬工業株式会社
63	柴田 浩行	応用化学系	教授	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式会社 NTT物性科学基礎研究所
64	林田 和宏	機械電気系	准教授	ディーゼル機関の噴霧計測に関する基礎研究 -燃焼解析に活かせる噴霧長・噴霧角・着 火位置・蒸気濃度など噴霧特性の計測手法	いすゞ自動車株式会社 CAE デジタル開発推進部
65	宮森 保紀	社会環境系	准教授	橋梁の変位計測により構造健全度 を判定する技術の研究開発	ダットジャパン株 式会社
66	岡崎 文保	応用化学系	准教授	触媒反応による高純度メタンからの グラフェン（ナノカーボン）の製造	東京ガスケミカル 株式会社
67	駒井 克昭	社会環境系	准教授	沿岸域及び河川・湖沼水域におけ る水域環境に関する研究	株式会社豊水設計
68	村田 美樹	応用化学系	教授	美幌町における下水汚泥・放流水中の微 量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
69	田村 淳二	機械電気系	教授	再エネ同期化力制御技術の研究(2)	株式会社日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベ ーション統括本部
70	川口 貴之	社会環境系	准教授	連続繊維補強土工の断熱性能向上 に関する研究	日特建設株式会社

2019年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
71	大津 直史	応用化学系	教授	レーザ加工を利用した自動車部品用金型の長寿命化技術の開発	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
72	小西 正朗	応用化学系	教授	増殖性試験サンプル組成からの増殖性試験結果の予測に関する研究	サントリー食品インターナショナル株式会社 ／サントリーシステムテクノロジー株式会社
73	川口 貴之	社会環境系	准教授	寒冷地におけるエアミルクの物性評価と適用に関する研究	株式会社フローリック
74	浪越 毅	応用化学系	准教授	紙筒用固化培土の開発	日本甜菜製糖株式会社 ／森産業株式会社
75	奥村 貴史	保健管理センター	教授	地域医療連携ネットワークの政策評価	横浜市医療局
76	小西 正朗	応用化学系	教授	舗装用材料の品質評価に関する研究	前田道路株式会社
77	村田 美樹	応用化学系	教授	ベンゾシロール類の製造法検討	田岡化学工業株式会社
78	井上 真澄	社会環境系	准教授	高耐寒・高耐久グラウト材の研究開発	日本高圧コンクリート株式会社
79	川尻 峻三	地域と歩む防災研究センター	センター長	橋台背面盛土の侵食実験における水理量計測の高精度化に関する研究	株式会社北開水工 コンサルタント
80	南 尚嗣	社会環境系	教授	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市上下水道局
81	坂上 寛敏	機械電気系	助教	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
82	坂上 寛敏	機械電気系	助教	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
83	林田 和宏	機械電気系	准教授	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善－白煙、臭気に関する研究－	いすゞ自動車株式会社 エンジン実験第一部
84	舘山 一孝	社会環境系	准教授	マイクロ波放射伝達モデルに基づく海氷厚推定アルゴリズムの開発	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

2019年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
85	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	環境精密制御によるオホーツク産 ハーブの高機能化	北見市産学官連携 推進協議会
86	井上 真澄	社会環境系	准教授	温水循環式エアーヒーターを用いた コンクリート給熱養生システムの構築	エクセン株式会社
87	川口 貴之	社会環境系	准教授	積雪寒冷環境における水道管の浅 層埋設に関する研究	北見市上下水道局
88	小西 正朗	応用化学系	教授	寒冷地の効率的浄水処理に関する 研究	北見市上下水道局
89	井上 真澄	社会環境系	准教授	温水循環式ヒーターを用いた省エネ型 給熱養生システムに関する研究	オホーツク新エネルギー 開発推進機構
90	木田 真人	社会環境系	助教	クラスレートハイドレートのパイ オガス成分包蔵性に関する研究	オホーツク新エネルギー 開発推進機構
91	舘山 一孝	社会環境系	准教授	雪氷モニタリングセンサのサブシ ステム技術の開発	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 /株式会社センテンシア
92	川尻 峻三	社会環境系	准教授	抗土圧構造物の洗掘被害ならびに 対策工の調査研究	公益財団法人鉄道 総合技術研究所/ 国立大学法人東京大学
93	坂上 寛敏	機械電気系	助教	斜里町における環境試料（下水汚 泥・放流水）中の微量環境有害成 分の定量に関する長期的研究	斜里町
94	小西 正朗	応用化学系	教授	浄化システムの運用効率化に関わ る研究	メタウォーター株 式会社
95	小西 正朗	応用化学系	教授	超高効率固液分離技術の適用に関 する基礎研究	メタウォーター株 式会社
96	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	オホーツク産カボチャ等の評価と 利活用	株式会社渡辺組
97	中村 大	社会環境系	准教授	植物根系による斜面の補強効果と これに与える凍結融解の影響の解明	北見土木技術協会
98	川村 彰	社会環境系	教授	ワイヤレス路面平坦性測定装置 の開発	株式会社PROFICT LAB

2019年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
99	宮森 保紀	社会環境系	准教授	橋梁維持管理におけるMEMS加速度計活用に関する研究	日本航空電子工業株式会社/ 国立大学法人長岡技術科学大学
100	小針 良仁	応用化学系	助教	漢方原料の成分調査	株式会社緑進
101	小西 正朗	応用化学系	教授	乳酸菌培養における天然基材組成の影響解析	北海道糖業株式会社
102	小西 正朗	応用化学系	教授	新商品「KIE～RU Uシリーズペット用」の商品開発	北見市/株式会社 環境ダイゼン
103	富山 和也	社会環境系	准教授	簡易路面測定データに基づくWEBベース道路管理システムの開発	北見市/株式会社 小柳中央堂
104	渡邊 達也	社会環境系	助教	雪地帯の大規模岩盤すべりにおける簡易で高精度な小型衛星測位モジュールを用いた長期連続観測システムの構築	奥山ボーリング株式会社
105	高井 和紀	機械電気系	准教授	GPSを用いた車両位置判定アルゴリズムの研究その2	株式会社ワークム 北海道
106	渡邊 達也	社会環境系	助教	雨による緩斜面災害を軽減するための研究 －寒冷地に特有な斜面堆積物の判定手法の開発－	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
107	井上 真澄	社会環境系	准教授	化学混和剤や補修材を用いた高機能セメント系材料に関する研究	日産化学株式会社
108	川尻 峻三	地域と歩む防災研究センター	センター長	河川増水時の橋台背面盛土の被災リスク評価に関する研究	株式会社開発工営社
109	橋本 泰成	機械電気系	准教授	脳波測定技術を用いた化粧品の効果測定に関する研究	株式会社アルビオン/ 学校法人東京農業大学
110	ラワンカル アビジード	機械電気系	助教	単眼カメラによる人認識と座標検出に基づく自律移動ロボットの制御	日本精工株式会社
111	木田 真人	社会環境系	助教	クラスレートハイドレートの蓄冷熱利用に向けた結晶学及び熱力学的研究	国立研究開発法人産業技術総合研究所/ 国立大学法人茨城大学
112	星野 洋平	機械電気系	教授	重量物搬送装置のシステム解析と多用途最適化に向けた制御系構築の研究	エクセン株式会社

2019年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
113	川村 彰	社会環境系	教授	低速時においても、IRIが測定できるSTAMPERⅢの開発	大成ロテック株式会社
114	佐藤 満弘	冬季スポーツ科学研究推進センター	准教授	日本人の身体的特徴に適合したスキーブーツの設計に関する研究	株式会社レクザム
115	黒河 賢二	情報通信系	教授	光ファイバ給電技術に関する検討	日本電信電話株式会社アクセスサービスシステム研究所
116	吉澤 真吾	情報通信系	准教授	水中音響測位装置の水中ドローン搭載と実証試験に関する研究	株式会社SIX VOICE
117	吉澤 真吾	情報通信系	准教授	浅海試験と高速画像伝送信号処理の検討	三菱電機特機システム株式会社
118	非公表	—	—	非公表	非公表
119	富山 和也	社会環境系	准教授	ICTを活用したWEBベース道路管理アプリの開発	株式会社要
120	非公表	—	—	非公表	非公表
121	川尻 峻三	地域と歩む防災研究センター	センター長	盛土材や施工時の締固め度の品質が補強土構造物に及ぼす影響に関する研究	一般社団法人日本テールアルメ協会
122	宮森 保紀	社会環境系	准教授	インフラ点検用ドローンによる構造物の変状点検技術の開発	川田テクノロジー株式会社
123	鈴木 育男	機械電気系	准教授	AIでの画像認識技術の共同開発	株式会社Zooops Japan
124	榊井 文人	冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長	カーリング動作解析の予備調査	株式会社アイエンター
125	川尻 峻三	地域と歩む防災研究センター	センター長	河床低下を受ける橋脚の変位モニタリングに関する研究	北見市/株式会社ダイヤコンサルタント北海道支社
126	星野 洋平	機械電気系	教授	FPGAベースエッジコンピューティングによるAI実装に関する研究	株式会社エクスプローラ
127	武山 眞弓	機械電気系	教授	食肉の熟成に関する研究開発	株式会社MARS PRODUCTS

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況

No	開催日	イベント名	開催場所
1	7/25 (木)	北洋銀行ものづくりテクノフェア 2019	北海道札幌市 (アクセスサッポロ)
2	8/29 (木) ～30 (金)	イノベーション・ジャパン 2019 ～大学見本市&ビジネスマッチング～	東京都江東区 (東京ビッグサイト青海展示棟)
3	9/10 (火)	帯広畜産大学 産学官金連携交流会	北海道帯広市 (帯広畜産大学)
4	10/9 (水) ～11 (金)	BioJapan2019	神奈川県横浜市 (パシフィコ横浜)
5	11/1 (金)	オホーツク・スマート農業セミナー2019【酪農・畜産】	北海道常呂郡佐呂間町 (浜佐呂間活性化センター)
6	11/6 (水) ～9 (土)	メッセナゴヤ 2019	愛知県名古屋市 (ポートメッセなごや)
7	11/7 (木) ～8 (金)	ビジネス EXPO「第33回北海道技術・ビジネス交流会」	北海道札幌市 (アクセスサッポロ)
8	11/15 (金) ～16 (土)	2019 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido ー北海道の食と農の明日へー	北海道札幌市 (サッポロファクトリー)
9	11/20 (水) ～22 (金)	アグリビジネス創出フェア 2019	東京都江東区 (東京ビッグサイト)
10	1/15 (水) ～20 (月)	地域を彩る食物語	北海道北見市 (コミュニティプラザ パラボ)
11	1/17 (金) ～19 (日)	札幌モーターショー2020	北海道札幌市 (札幌ドーム)
12	2/12 (水)	オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】	北海道北見市 (端野町公民館)

■イベント名：北洋銀行ものづくりテクノフェア2019

■日 時：7月25日（木）

■会 場：アクセスサッポロ（北海道札幌市）

本フェアは北海道内のものづくり産業を振興するために北洋銀行が開催しており、本学は1回目から共催機関として出展している。産業界を中心とした出展機関は約200社・団体で、その内大学・高専からの出展は11件だった。本学からは、積雪寒冷地域における防災力の向上に貢献するため2019年5月に設置された「地域と歩む防災研究センター」について展示・紹介し、会場では川尻峻三センター長と渡邊康玄副学長が同センターの取り組む研究について説明を行った。本フェアは道内の参加者が多く、地域に根差した大学という位置付けをPRできる場となった。



本学ブース

■イベント名：イノベーションジャパン2019～大学見本市&ビジネスマッチング～

■日 時：8月29日（木）・30日（金）

■会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

本イベントは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の産学マッチングイベントである。全国の大学・高専から400名が参加し、研究シーズ展示や大学組織展示、セミナーが行われた。本学からは、超スマート社会ゾーンに地域未来デザイン工学科 小西正朗教授が取り組む「成分分析×機械学習によるものづくりスマートエンジニアリング」、装置・デバイスゾーンに地域未来デザイン工学科 酒井大輔助教が取り組む「ガラスへの光機能転写記録」の2つの研究が出展採択となり、パネルやサンプルを用いた研究紹介を行った。両研究はショートプレゼンテーションも行われ、多くの方が聴講に訪れた。本展示会は共同研究等を目的として様々な業種から関心が寄せられているため、本学においても研究力向上に繋がる展示会として重視している。



説明を行う小西教授（写真中央）



プレゼンテーションを行う酒井助教

■イベント名：帯広畜産大学 産学官金連携交流会

■日 時：9月10日（火）

■会 場：帯広畜産大学（北海道帯広市）

本交流会は帯広畜産大学が地域に対してできることを発信するとともに、地域を支える様々な業種の方との交流の場をつくることを目的として、2回目の開催となる今回は農畜産業や製造業、行政・金融機関など学内外から138名が参加した。

本学からはオホーツク農林水産工学連携研究推進センター長の村田美樹教授と社会連携推進センター長の有田敏彦教授が参加され、第一部は研究発表及び講演会、第二部では同大学産学連携センターにおいて、情報交換会が開催された。情報交換会では、教員が研究シーズ等を紹介し、村田センター長も研究推進センター愛称「CAFFÈ」について説明するなど、活発な情報交換が行われ、盛況のうちに閉会した。



情報交換会における
ポスターセッションの様子

■イベント名：BioJapan2019

■日 時：10月9日（水）～11日（金）

■会 場：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

本イベントはバイオ・メディカル産業におけるアジア最大級のパートナーリングイベントである。国内外から製薬会社や医療機関、研究機関が多数参加し、同時開催の再生医療Japan2019と併せて来場者は1万6千人にのぼった。本学は2016年から北海道庁、札幌市、ノーステック財団が共同出展する「北海道バイオクラスター」ブース内に出展しており、今回は道内の学術・研究機関が取り組む医療系シーズを取りまとめた「北海道 健康・医療研究シーズ集」に掲載されている本学の4つの研究についてパネル展示を行い、工学的視点からの医療分野への取り組みについて紹介した。本学では医工連携をテーマに研究を行っている研究者もおり、バイオメディカル・ヘルスケア技術に関する研究を紹介する貴重な機会となった。



北海道バイオクラスターブースの様子

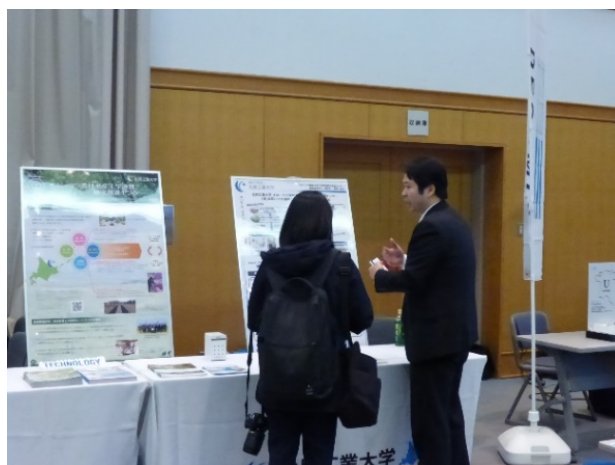
■イベント名：オホーツク・スマート農業セミナー2019【酪農・畜産】

■日 時：11月1日（金）

■会 場：浜佐呂間活性化センター（北海道常呂郡佐呂間町）

本セミナーは、オホーツク総合振興局や農業関係機関が構成員として参加するオホーツク・スマート農業推進会議が主催し開催された。農業従事者や研究機関、官公庁などから75名が参加し、会場ではセミナーの他、スマート農業に関連する本学を含む6団体・企業の展示が行われた。本学はオホーツク農林水産工学連携研究推進センター小西正朗教授の「牛の尿から作られる液体たい肥の新規有用性」、同センター霜鳥慈岳准教授の「北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センターと株式会社北見ハッカ通商共同研究講座の取

り組み」についてパネル展示を行った。会場では、邱泰瑛助教と大学院生の加藤勇太さんが来場者へ説明を行い、セミナー終了後のブース出展者 PR では本学産学官連携コーディネーターの三枝専門職員がオホーツク農林水産工学連携研究推進センターとその取り組みについて紹介した。本セミナーへの参加は酪農・畜産業界従事者の声を直接聞くことのできる貴重な場となった。



説明を行う邱助教（写真右）



ブース展示 PR の様子

■イベント名：メッセナゴヤ 2019

■日 時：11月6日（水）～9日（土）

■会 場：ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）

本イベントは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会で、1400を超える企業・団体が出展している。北海道では、中京圏市場に対し道内企業や学術機関の技術・製品等、高い技術のアピールを目的として北海道ブースを設けており、16の企業・団体と本学を含む3つの大学が出展した。本学は、地域未来デザイン工学科富山和也准教授が取り組む「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測」について展示を行った。6日、7日の2日間は富山准教授と社会環境工学専攻2年天池竜輔さんが来場者への説明を行い、自動車関連企業の来場者も多く集まる会場に関心を集めた。本学にとって中京圏でのイベント出展の機会は貴重であり、本学を全国にPRする上で重要なイベントとなっている。



北海道ブースの様子

■イベント名：第33回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）

■日 時：11月7日（木）・8日（金）

■会 場：アクセスサッポロ（北海道札幌市）

本イベントは北海道内の産学官金の関係諸機関が協力し開催しており、毎年350以上の企業・団体が参加する北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントである。本学は

「学術・試験研究機関展示ゾーン」において、今年5月に設置された「地域と歩む防災研究センター」についてパネル展示を行い、会場では同センター突発災害調査研究部門長の宮森保紀准教授が説明を行った。

また、札幌近郊の高校生も見学を訪れ、入試案内など本学の紹介も行った。本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の先輩達も数多く訪れ、大学と企業のつながりを深めるためにも重要な機会となっている。



説明を行う宮森准教授（写真左）

■イベント名：2019 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido - 北海道の食と農の明日へー

■日 時：11月15日（金）・16日（土）

■会 場：サッポロファクトリー（北海道札幌市）

本フェアは、同年10月に東京で行われた「アグリビジネス創出フェア」の北海道版という位置づけで開催され、食や農業に関する約30の企業・団体が参加した。今回はオホーツク農林水産工学連携研究推進センターの紹介と同センター霜鳥慈岳准教授の「北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センターと株式会社北見ハッカ通商との共同研究講座の取り組み」、「工学連携推進型6次産業人材育成事業（以下、工農事業）」のパネル展示を行った。また、16日に行われたステージイベント「ここが見どころ！」では霜鳥准教授が研究内容や同センターの取組みについて紹介した。共同出展の北見市雇用創造協議会は、工農事業の受講生が開発に携わった「トマトのアランチーネ」、「ハッカチョコレート」、「ローズマリーグミ」、「乾燥鮭のちゃんちゃん焼き」の試食・アンケート調査を行い、今後の商品開発において有益な情報を得ることができた。出展者向けのブースプレゼンテーションも行われ、出店者同士の交流の場も設けられた。本フェアへの出展は、本学の農業への工学的支援の取り組みについて一般の方にも広く知っていただく機会となっている。



プレゼンテーションを行う霜鳥准教授



本学の展示ブース

■イベント名：アグリビジネス創出フェア 2019

■日 時：11月20日（水）～22日（金）

■会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

本フェアは、全国の公的機関等が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を紹介し、研究機関間や事業者との連携を促す場として農林水産省が主催している。今回は全国から134機関が参加した。本学は、「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」と本学が平成18年度から実施している「工学連携推進型6次産業人材育成事業（以下、工農事業）」について展示を行った。21日には「ビジネスチャンス発掘ツアー」の参加者がブースを訪問し、社会連携推進センター長の有田敏彦教授がスマート農業や工農連携の取り組みについて紹介した。22日にはオホーツク農林水産工学連携研究推進センター長の村田美樹教授が、センターの概要や特色についてプレゼンテーションを行った。また、工農事業の受講生が開発に携わった焼菓子・ハッカチョコレートを試食とアンケート調査も行われ、今後の製品開発に役立つ貴重な意見が得られた。本イベントへの参加は、工学による農林水産業の支援・発展への貢献に向けた活動を知っていただく貴重な場となっている。



「ビジネスチャンス発掘ツアー」の様子



村田センター長によるプレゼンテーション

■イベント名：地域を彩る食物語～大学からの発信 こだわりのあるおいしいもの販売!!～

■日 時：1月15日（水）～20日（月）

■会 場：コミュニティプラザパラボまちきた大通ビル（北海道北見市）

本イベントは北見市産学官連携推進協議会の主催、本学の共催で、例年北見市で行われる高知物産展と同時開催されている。今回は長崎大学、帯広畜産大学、東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学、本学の5大学とオホーツク地域振興機構、北見市雇用創造協議会の2機関が参加した。

会場では、各大学等が取り組む商品開発の成果発表として、開発した商品の試食・販売や研究紹介のパネル展示が行われた。初日にはサテライトオフィス北見を会場に、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエイター育成事業の本学受講生や他機関の出展者が成果報告会を行った。その後、小樽商科大学の北川泰治郎教授による講演と情報交換会が行われ、参加者同士が交流を深めた。



受講生による成果報告の様子



パネル展示・販売会の様子

■イベント名：札幌モーターショー2020

■日 時：1月17日（金）～19日（日）

■会 場：札幌ドーム（北海道札幌市）

本イベントは2012年から隔年で開催されており、本学は初回から同イベント内に設置される「北海道自動車産業ゾーン」に出展している。「北海道自動車産業ゾーン」は北海道と独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部が主催となり、北海道の自動車関連企業・団体の技術を紹介することを目的に設置されている。大学機関や公的試験研究機関、北海道内企業の全18機関が参加し、それぞれが取り組む自動車関連技術が紹介された。本学は、地球環境工学科 林田和宏教授が取り組む「低温条件下におけるディーゼルエンジンの始動性改善技術」について紹介し、現地では林田教授と大学院機械専攻1年 砂洞直輝さん、濁沢和樹さんが来場者への説明を行った。研究紹介に合わせて展示したエンジンのカットモデルには子供から大人まで多くの方が関心を寄せ、ブースは盛況となった。また、北海道が製造業における女性の参画促進を目的に展開した、「ものづくりなでしこ応援プロジェクト」パネル展示には、本学から大学院生産基盤工学専攻博士後期課程1年前田優奈さんを紹介した。



ブース PR の様子



説明を行う林田教授（写真左）

■イベント名：オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】

■日 時：2月12日（水）

■会 場：端野町公民館（北海道北見市）

本セミナーは、オホーツク総合振興局や農業関係機関が構成員として参加するオホーツク・スマート農業推進会議が主催となり開催された。セミナーには農業従事者や研究機関、官公庁などから300名以上が参加し、会場ではセミナーの他、ドローンやアシストスーツなどの展示・紹介が行われた。

本学からはオホーツク農林水産工学連携研究推進センターの楊亮亮助教と学部 4 年生の荒井ルシアさん、竹内優作さん、博士前期課程 1 年辻蒼星さんの学生 3 名が参加し、「AI を用いたカボチャ自動収穫のための果実認識」「傾斜地走行精度向上する研究ー持続可能な大規模精密農業の実現をめざしてー」「コンプライアンス機構によるかぼちゃ表皮除去の完全自動化に向けた開発」の 3 つの研究についてパネル展示を行った。セミナー終了後にはブース出展者の展示紹介が行われ、楊助教がオホーツク農林水産工学連携研究推進センターや同センターが取り組む研究を紹介した。



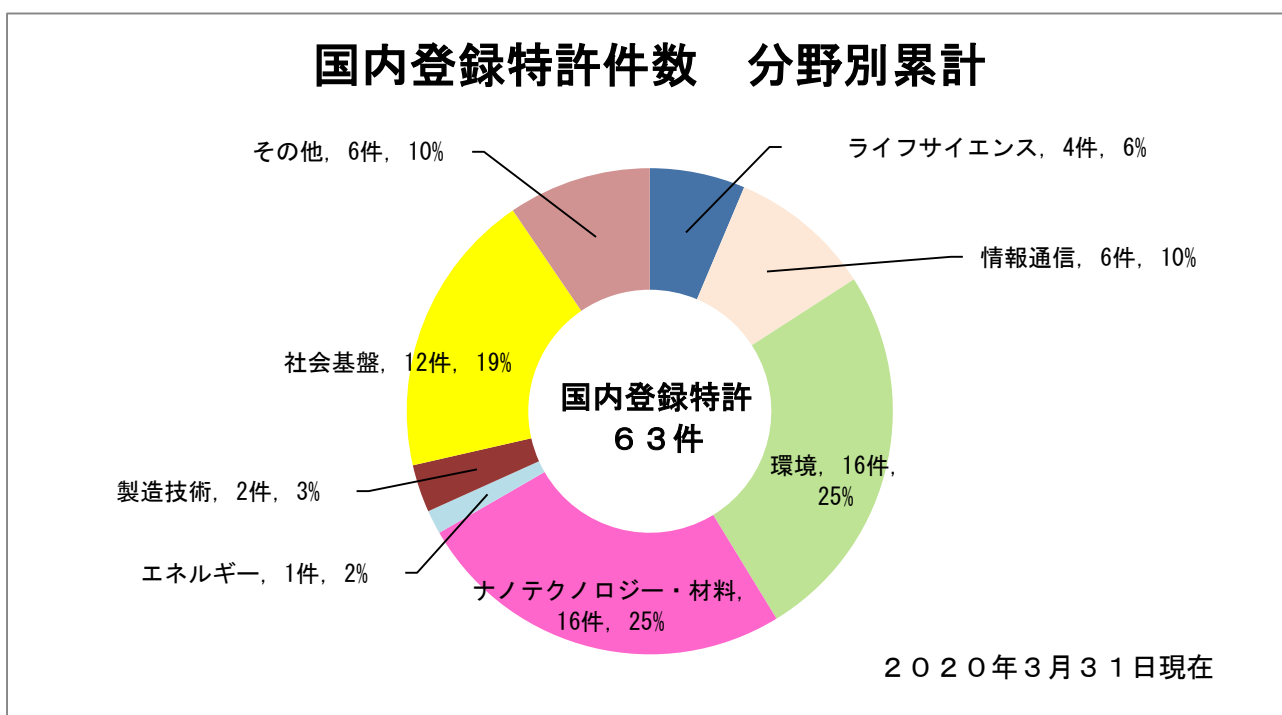
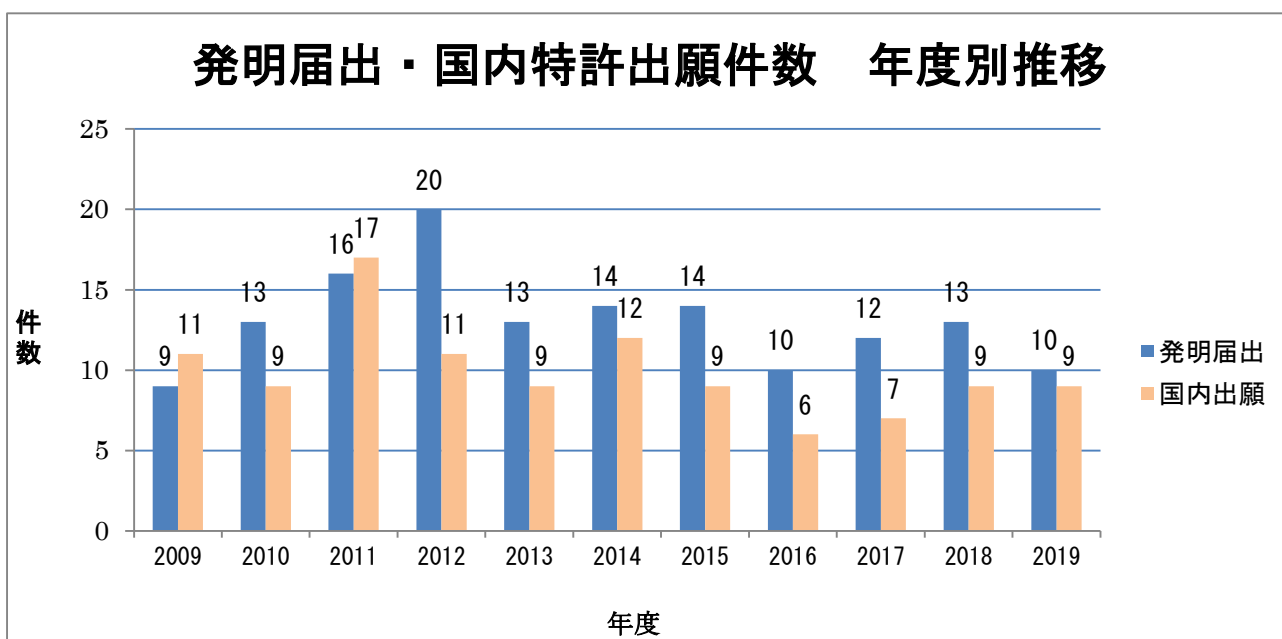
パネル展示の様子



展示紹介の様子

5) 知的財産活動実績

本学では、研究の成果を知的財産として権利化し活用する活動を進めている。平成 21 年度からは研究者ごとの個別面談をベースに知的財産活動の重点を研究より上流過程にシフトしており、研究の早い段階から知的財産面からの支援を行っている。また、近年、国内出願数が 10 件程度で推移しており、基本的な知的財産活動の趣旨を啓発から質的向上へとフェーズアップさせている。国内登録特許件数は、所有する知的財産の評価・見直しを行っており、近年 60 件程度で推移している。その技術分野は、ライフサイエンスをはじめ、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料など広範に及んでいる。



6) 地域再生人材育成プログラムの推進

「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」第14期の実施

【(旧)新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン】

2006年度より5年間続けてきた「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」は、2011年度においては北見市の協力により「産学官連携第6次産業人材育成事業」として、2012年度はオホーツク総合振興局「オホーツク「食」の地域資源付加価値向上事業」により継続することができ、2013年度においては北見市の協力により「地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業」として実施してきた。また、これまで同様北見工業大学発ベンチャー企業である企業組合北見産学医協働センターが事業採択を受け、大学の人材育成を連携して運営するという形式で進めてきた。また、2014年度からは北見市雇用創造協議会との連携の中で運営している。2019年度の受講生は学生1名、社会人4名でした。

(1) 開発課題概要

①未利用野菜を活用した商品開発

北見市内で栽培されているチコリの未利用部分である根を利用したプリンやコーヒーなどの商品開発を行った。また、イタリアンコロッケを含め地元シェフと北見市雇用創造協議会との連携によりプリンの商品化、販売まで実施できた。

②ミントチョコ、嚙下食、ホタテ塩の新商品開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めた課題。地場産ミントによる新しいタイプのチョコレートおよび野菜の嚙下対策の開発、オホーツク海産ホタテの煮汁からホタテ塩の開発を行った。地元メーカーなどと連携し商品化を目指した。

③ローズマリーグミ

伊谷商事の商品開発で、オホーツク地域では継続的な栽培が難しいが、香り等に魅かれオホーツク産ローズマリーを委託栽培して精油、蒸留液を抽出し、スプレーとグミを試作することができ、その販路、市場性について特に研究を行った。

④チェブ饅頭及び雲丹のふりかけ

マルミヤ大宮商店の商品開発で、これまで「チェブ饅頭」(鮭のチャンチャン焼き入り饅頭)を製造販売している。そのチャンチャン焼きを利用して「ふりかけ」を試作した。また、同様の製造方法にて地元斜里町の漁協等で未利用となっていた規格外雲丹のふりかけも試作し市場調査、レシピの開発を行った。

⑤フコイダンの酸化ストレス抑制作用(学生)

活性酸素種(ROS)および活性窒素種(RNS)による生体酸化ストレスは、様々な疾病に関与することが示唆されている。低密度リポタンパク質(LDL)の酸化は、アテローム性動脈硬化症の発症原因の一つと考えられ、食品に含まれる種々の抗酸化物質の摂取は、ROSおよびRNSによるLDLの酸化抑制に寄与することが報告されている。

これらのことからフコイダンの酸化ストレス抑制作用をフコースとの比較によりin vitroで調べた。

(2) 地域の販売イベント等

①インフォメーションバザール in Tokyo 2019 (東京都)

日 時：2019年9月5日(木) 10:00~17:00

2019年9月6日(金) 10:00~16:00

会 場：池袋サンシャインシティ ワールドインポートマートビル4階

主 催：北洋銀行、帯広信用金庫

東京都で開催された「インフォメーションバザール in Tokyo 2019」へ参加した。本イベントは、主に北海道の食品を首都圏に向けて紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す実践的な商談会であった。本イベントでは、受講生2名が地域食品加工（特にオホーツク地域）に関するアンケートを行った。

本事業の過去の受講生の開発商品のPRなども行われており、修了生が継続して商品開発などに携わっていることで、本事業の有用性を確認できた。

②第4回オホーツク農大マルシェ (網走市)

日 時：2019年10月12日(土) 10:00~15:00 (13日は雨天中止)

会 場：東京農業大学オホーツクキャンパス

主 催：東京農業大学

東京農業大学で毎年開催されている「収穫祭」と連携し実施されたマルシェに参加した。本イベントでは、主に東京農大オホーツクキャンパスで行われている人材育成事業の市場調査も含めて行われており、あわせて食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

本イベントにおいても、受講生1名が販売実習を行った。

③輝農祭～美味しく育つ有機農業、安心安全！～ (大空町)

日 時：2019年10月14日(月) 10:00~15:00

会 場：道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」

主 催：輝農祭実行委員会

大空町で開催された「輝農祭」へ参加した。本イベントは、今年で17回目であり、有機農業を通して、食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

地元の小学生が育てたかぼちゃの販売、料理実習、近隣地域からの出店、地元小・中・高校生のステージや北見工業大学学生による、おもしろ科学実験の体験などのイベントが催された。

本イベントにおいても、修了生1名、受講生1名が屋外販売を含め販売実習を行った。

④2019 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido (札幌市)

日 時：2019年11月15日(金)~16日(土) 10:00~17:00

会 場：サッポロファクトリー

主 催：NPO法人グリーンテクノバンク、農林水産省

本イベントは、“北海道の食と農の明日へ”と題し、北海道地域の農業、食品産業及び関連産業の活性化を目指し、産学官連携による技術開発の促進、起業化・事業化

チャンスの発掘とビジネス・ネットワークの拡大を図るとともに、産業の技術開発と新技術の普及の大切さを市民に伝えることを目的としている。

農業、食品分野の技術交流展示、ステージプレゼンテーションなど一般の方にも開かれた展示会である。

本イベントへは、受講生2名の試作品（イタリアンコロッケ、ミントチョコレート等）ならびにこれまでの商品展示紹介、広くたくさんの方に認知していただけるよう紹介を行った。現在進めている開発商品へ利用可能な技術の知得とビジネス・ネットワークの拡大に努めた。

⑤アグリビジネス創出フェア2019（東京都）

日 時：2019年11月20日（水）～22日（金）10：00～17：00

会 場：東京ビッグサイト

主 催：農林水産省

東京都で開催されている「アグリビジネス創出フェア2019」に参加した。本イベントは、産学官の各機関が、農林水産・食に関する最新の技術を持ち寄り交流することを通じ、新たなビジネスの芽を創出する事を目的として毎年開催されている。

ブースでは大学におけるバイオ関連研究内容の説明、人材育成事業についての情報提供などを行い、来場者との交流を図った。

本イベントには、受講生2名が参加し、試作品の展示、アンケート調査を行った。そのほか、来場者に商品PRを行うとともに、商品についての意見、要望等を伺った。展示品については受講生2名の試作品（イタリアンコロッケ、ミントチョコレート等）の試食を行った。また、展示内容について情報交換を行い、各出品者に内容をフィードバックした。

⑥地域を彩る食物語～大学からの発信 こだわりあるおいしいものの販売!!～

日 時：2020年1月15日（水）～20日（月）9：00～18：00

会 場：コミュニティプラザパラゴ5階

主 催：北見市産学官連携推進協議会

共 催：北見工業大学

各地域の大学が実施している食農人材養成事業の成果品等を発表するとともに、食農人材養成事業について市民の皆様に周知することを目的として北見工業大学が共催しているイベントである。

人材育成事業内容の発表、受講生の成果報告、事業の中で開発した商品や大学の技術を利用して製品化した商品を紹介し、“食と健康”、“人材育成”をキーワードとした地域興しの意識を広く共有し向上させることを目的としている。

本年で10回目を迎えるイベントで、5階催事場にて高知物産展との併催で開催した。

また、成果報告会では受講生の発表に続き、オホーツク財団住佐研究員、(株)ガロード堀江相談役の取り組み紹介、講演会として「マーケティングの基本」と題し小樽商科大学の北川教授にお願いし、翌日は小樽商科大学の岸本教授に本イベントの評価をお願いした。



開会式（吉田副会長挨拶）



来賓挨拶（北見市清水商工部次長）



会場の様子



講演会の様子

(3) 講演会等

①北見工業大学・帯広畜産大学・東京農業大学 3大学合同セミナーin 帯広 「(株)ガロードのSWOT分析」

日 時：2020年1月25日（土）15：30～19：30

2020年1月26日（日）9：00～16：15

会 場：帯広畜産大学 産学連携センター

北見工業大学、東京農業大学、帯広畜産大学「地域再生人材創出拠点の形成」事業採択3大学の人材育成事業の受講生・修了生が新たな知識習得やプレゼンテーションスキルのスキルアップを図り、情報交換を通じて大学間や受講生・修了生同士の交流を深めることを目的として開催された。本学からは受講生2名、スタッフ2名が参加した。

(4) 今後について

本事業を通して帯広畜産大学、東京農業大学オホーツクキャンパスとの連携も深まり、本年度も道東地区、とりわけオホーツク、十勝においては、6次産業化の動きがより活発化しているのを感じている。また、本事業の本質である「第一次産業の工業化」に向けて徐々に地域の足並みもそろってきている事を再確認できている。このことは、これまで進めてきている産学官連携による産業振興は人材育成を行いつつ地域特性を生かした商品作りを試み、販促活動、市場調査を進めることが、かなり有効な手段と全国的に理解されてきていると考えている。したがって、今後も新たな機関との連携を強化しつつ、これまでの機関ともより強固な協力体制により継続できるよう努力していきたいと考えている。

7) 各種会議報告

◇社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議

会議名称	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議	
開催状況	日 時	2019年10月28日(月) 14:00~16:30
	審議事項	1 オホーツク農林水産工学連携研究推進センター(略称CAFPE)の活動と地域と歩む防災研究センター(略称SAFER)の設置について
		2 学生の地域定着を目指す取組み(COC+事業)に係る報告と今後の活動について
		3 その他

◇北見工業大学社会連携推進センター推進協議会

会議名称	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会	
開催状況	日 時	2019年4月22日(月) 14:00~15:25
	審議事項	1 報告第1号 平成30年度事業報告
		2 報告第2号 平成30年度決算報告
		3 報告第3号 平成30年度監査報告
		4 議案第1号 平成31年度事業計画(案)
		5 議案第2号 平成31年度予算(案)
		6 議案第3号 規約の改正について
		7 その他

◇北見市産学官連携推進協議会

会議名称	北見市産学官連携推進協議会	
開催状況	日 時	2019年5月14日(木) 14:30~16:30
	審議事項	1 報告第1号 平成30年度事業報告について
		2 報告第2号 平成30年度決算報告について
		3 報告第3号 平成30年度監査報告について
		4 議案第1号 令和元年度事業計画(案)について
		5 議案第2号 令和元年度予算(案)について
		6 その他

◇社会連携推進センター運営会議

会議名称	第1回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2019年4月18日(木) メール審議
	審議事項	1 2018年度社会連携推進センター決算(案)について
		2 2019年度社会連携推進センター事業計画(案)について

会議名称	第2回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2019年7月10日(水) 16:30~17:10
	審議事項	1 2019年度社会連携推進センターの活動にかかる確認について (第1回運営会議の確認)
		2 2019年度市町村訪問について
		3 その他
	報告事項	1 学長裁量経費の申請について
2 その他		

会議名称	第3回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2019年9月17日(火) メール審議
	審議事項	1 2019年度社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議の開催について

会議名称	第4回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2020年2月13日(木) メール審議
	審議事項	1 2020年度社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員の依頼先機関等について

会議名称	第5回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	2020年3月16日(月) メール審議
	審議事項	1 2020年度社会連携推進センター客員教授について
		2 2020年度社会連携推進センター利用申請等について
	報告事項	1 2019年度社会連携推進センターの活動について
		2 2019年度市町村訪問について
		3 社会連携推進センターニュースレター「with」の発行について

○	学 内
◆	学 外

8) 2019 年度 活 動 日 誌

- 4 / 8 (月) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 4 / 18 (木) ○平成 31 年度第 1 回社会連携推進センター運営会議 (メール審議)
- 4 / 19 (金) ◆I T 推進協会
- 4 / 22 (木) ○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会平成 31 年度総会
- 5 / 7 (火) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 5 / 13 (月) ◆令和元年度北見地域企業立地促進協議会総会
- 5 / 14 (火) ◆北見市産学官連携推進協議会令和元年度総会
- 5 / 21 (火) ◆令和元年度第 1 回北見市中小企業振興審議会
- 5 / 24 (金) ◆北見市雇用創造協議会総会
- 5 / 28 (火) ○地域と歩む防災研究センター開所式
◆オホーツク産学官融合センター運営委員会
- 5 / 31 (金) ◆オホーツク新エネルギー開発推進機構総会
- 6 / 3 (月) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 6 / 13 (木) ◆オホーツク地域エネルギー環境教育研究会総会
- 6 / 20 (木) ◆産学連携学会第 17 回大会【奈良大会】(奈良県奈良市)
◆産業クラスター研究会オホーツク令和元年度定期総会
- 6 / 22 (土) ◆産学連携学会地域連携広報委員会
- 6 / 24 (月) ◆北海道中小企業家同友会オホーツク支部連携プログラム委員会
- 6 / 26 (水) ◆I T 推進協会
- 7 / 1 (月) ◆柏陽高校評議会
◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 7 / 2 (火) ◆企業家育成支援セミナー
- 7 / 3 (水) ◆令和元年度ノーステック財団「研究開発助成事業」第 2 回審査会
- 7 / 5 (金) ◆令和元年度日本鉄鋼協会・日本金属学会両支部合同サマーセッション
- 7 / 7 (日) ◆第 53 回おけと夏まつり・第 44 回人間ばん馬大会 (北海道置戸町)
- 7 / 10 (水) ○令和元年度第 2 回社会連携推進センター運営会議
- 7 / 11 (木) ◆北見市技能普及実行委員会
- 7 / 19 (金) ◆第 66 回北見ぼんちまつり 舞踊パレード
- 7 / 20 (土) ◆第 66 回北見ぼんちまつり 科学塾
- 7 / 24 (水) ◆「食に関するミニ補助事業」審査委員会
- 7 / 25 (木) ◆北洋銀行ものづくりテクノフェア 2019(北海道札幌市)
- 7 / 29 (月) ◆食品加工技術センター賛助会総会
- 8 / 2 (金) ○ダイバーシティ懇談会
- 8 / 5 (月) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 8 / 6 (火) ○令和元年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式
- 8 / 9 (金) ◆情報技術まちづくり協議会
- 8 / 19 (月) ◆令和元年度第 2 回北見市中小企業振興審議会

- 8 / 23 (金) ◆HiNT 企画ワーキンググループ事務局
- 8 / 26 (月) ◆北海道科学技術審議会地域懇談会
- 8 / 28 (水) ◆再生可能エネルギーを中心とした道内先進事例の視察
- 8 / 29 (木) ◆イノベーション・ジャパン 2019ー大学見本市&ビジネスマッチングー(東京都江東区)
◆第 69 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 (青森県弘前市)
- 9 / 2 (月) ○オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 9 / 5 (木) ◆第 31 回国立大学法人共同研究センター専任教員会議 (宮城県仙台市)
◆日本災害看護学会
- 9 / 10 (火) ◆帯広畜産大学産学官金連携交流会「大人のオープンキャンパス」 (北海道帯広市)
- 9 / 17 (火) ○令和元年度第 3 回社会連携推進センター運営会議 (メール審議)
◆商工会議所評価委員会
- 9 / 18 (水) ◆市町村訪問 佐呂間町
- 9 / 19 (木) ◆山口大学知的財産教育研究共同利用拠点運営委員会 (東京都港区)
- 9 / 20 (金) ◆市町村訪問 網走市、津別町
- 9 / 25 (水) ◆北見市技能普及実行委員会講演会「ダシを科学する～味の探求～」
- 9 / 27 (金) ◆市町村訪問 興部町、雄武町、西興部村
- 9 / 30 (月) ◆第 2 回北海道のものづくり基盤強化に向けた産学連携会議 (北海道札幌市)
- 10 / 1 (火) ◆市町村訪問 湧別町、滝上町、紋別市
- 10 / 3 (木) ◆第 31 回国立大学法人共同研究センター長等会議(岩手県盛岡市)
- 10 / 7 (月) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 10 / 8 (火) ◆市町村訪問 美幌町、大空町、小清水町
- 10 / 9 (水) ◆Bio Japan2019 (神奈川県横浜市)
◆JST 産連事業広聴会 (宮城県仙台市)
○ダイバーシティ推進室会議
- 10 / 10 (木) ◆市町村訪問 遠軽町
- 10 / 11 (金) ◆市町村訪問 訓子府町、置戸町
- 10 / 12 (土) ◆東京農業大学オホーツク農大マルシェ (北海道網走市)
- 10 / 24 (木) ◆地域バイオ育成推進講座 in オホーツク
- 10 / 25 (金) ◆市町村訪問 斜里町、清里町
- 10 / 28 (月) ○令和元年度国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
- 11 / 1 (金) ◆オホーツク・スマート農業セミナー2019【酪農・畜産】 (北海道常呂郡佐呂間町)
- 11 / 5 (火) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
◆北海道札幌琴似工業高等学校出張講義 (北海道札幌市)
◆第 16 回 北海道ブロック公和会交流会 (北海道札幌市)
- 11 / 6 (水) ◆メッセナゴヤ 2019 (愛知県名古屋市)
- 11 / 7 (木) ◆第 33 回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO) (北海道札幌市)
- 11 / 8 (金) ○ダイバーシティ推進室女子学生懇談会
- 11 / 15 (金) ◆2019 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido(北海道札幌市)
- 11 / 18 (月) ◆北海道中小企業家同友会オホーツク支部「オホーツク☆未来塾」

- 11 / 20 (水) ◆アグリビジネス創出フェア 2019(東京都江東区)
- 11 / 23 (土) ◆新エネルギーセミナー「再生可能エネルギーとエネルギーの地産地消について」
- 12 / 2 (月) ◆北海道産学官連携シンポジウム (北海道札幌市)
◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 12 / 8 (日) ◆オホーツク豆フェスタ (北海道網走郡大空町)
- 12 / 10 (火) ○ダイバーシティ推進室会議
- 12 / 14 (土) ○合同企業研究会
◆北見市立緑小学校土曜学校
- 12 / 17 (火) ○ダイバーシティ推進に関する講演会
- 12 / 21 (土) ○合同企業説明会
- 12 / 24 (火) ◆北海道石狩南高等学校出張講義 (北海道石狩市)
- 1 / 6 (月) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 1 / 15 (水) ◆地域を彩る食物語
- 1 / 17 (金) ○オホーツク地元企業と北見工業大学就職担当教員との意見交換会
◆札幌モーターショー2020 (北海道札幌市)
- 1 / 24 (金) ◆一般財団法人北見振興公社評議会
- 1 / 25 (土) ◆3大学合同セミナーin 帯広畜産大学 (北海道帯広市)
- 1 / 30 (木) ◆経済産業局との意見交換会
- 2 / 1 (土) ○北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター第2回シンポジウム
- 2 / 3 (月) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 2 / 6 (木) ◆社会福祉法人北海道仕愛会光の苑臨時評議会
- 2 / 10 (月) ○ダイバーシティ推進室会議
- 2 / 12 (水) ◆オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】
- 2 / 13 (木) ○令和元年度第4回社会連携推進センター運営会議 (メール審議)
- 2 / 19 (水) ○オホーツク合同企業セミナー
- 2 / 25 (火) ○地元中小企業経営者と学生の懇談会
- 2 / 26 (水) ◆北海道北見柏陽高等学校評議会
- 3 / 2 (月) ◆オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 3 / 11 (水) ○ダイバーシティ推進室会議
- 3 / 16 (月) ○令和元年度第5回社会連携推進センター運営会議 (メール審議)

2. 付録

- ・センター関連規程
- ・技術相談申込書

■ 社会連携推進センター関連の規程 ■

1. 北見工業大学社会連携推進機構規程
2. 北見工業大学社会連携推進センター要項
3. 北見工業大学社会連携推進センター利用内規
4. 北見工業大学研究推進機構規程
5. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員要項
6. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進協力員内規
7. 北見工業大学社会連携推進センター運営会議内規

規程の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。

<http://www.kitami-it.ac.jp/>

年 月 日

所属：

役職：

氏名：

住所：〒

TEL：

FAX：

技 術 相 談 申 込 書

〈相談事項〉

〈 申込書送付先 〉

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター（旧地域共同研究センター）

T E L : 0157-26-4161

F A X : 0157-26-4171

E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

国立大学法人北見工業大学 社会連携推進センター年報第18号 2019年度

発行日 2020年8月

発行者 国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進センター

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

TEL : 0157-26-4161

FAX : 0157-26-4171

E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

URL : <http://www.crc.kitami-it.ac.jp/>

